

第13回 日銀グランプリ決勝大会 審査員講評

審査員長	岩田 規久男	(日本銀行副総裁)
審査員	小林 いずみ	(経済同友会副代表幹事)
	国谷 裕子	(キャスター、東京藝術大学理事)
	櫻井 眞	(日本銀行政策委員会審議委員)
	政井 貴子	(日本銀行政策委員会審議委員)

1. 総評

皆さん、プレゼンテーションお疲れ様でした。

様々な問題点や課題を把握した上で、若い柔軟な発想で提言していただきました。また、統計データに加え、実務家への聞き取り調査やアンケート等を通じて、自身の抱いた問題を解決しており、具体的で実現可能性を感じさせるものでした。

本日のプレゼンテーションも、様々な工夫がこらされていました。また、審査員から専門的かつ高度な質問を受けても、自分たちの考えを堂々と提示し、審査員と議論を深めていました。そうした若い皆さんの姿は大変頼もしく、また嬉しく感じたところです。

2. 個別の論文について

それでは、個々の論文ごとに講評を述べたいと思います。

【最優秀賞】 摂南大学

健康通貨『WReC（レック）』 ～地域の魅力も“一歩”から～

摂南大学チームの提言は、健康地域通貨を導入することにより、「地域活性化」「少子高齢化への対策」「医療・介護問題への対策」を同時に実現しようという試みです。

この提言は、①住民が運動することによる医療費・財政負担の軽減分を「地域通貨」の財源として、住民に運動量に応じて還元する、②健康を通じて経済活動が活性化しているイメージにより、人口が流入するという、好循環型の仕組みである点が高く評価できます。

なお、①運動量と地域通貨の交換比率、②摂取カロリーなど運動量以外の項目の勘案、③ウェアラブル端末等の導入コスト、④地域通貨の発行規模や適切な発行体を検討して、実効性の検証を進めていただければと思います。

【優秀賞】 日本大学

貧困の連鎖を断ち切れ!! ～SIBを使った貧困家庭の子どもの教育・大学進学プログラム～

日本大学チームは、ソーシャル・インパクト・ボンドを活用し、経済的な理由で学習できない子供への教育支援プログラムを提案されました。貧困家庭の子供は教育を受けられる機会に恵まれないケースが多いことは、ニュース等でよく取り上げられております。当グランプリにも、関連テーマで多くの応募がございました。

具体的な提案の内容は、貧困家庭の子供の大学進学に向け、小学校から高校までの支援を寄付で行い、大学進学の支援はソーシャル・インパクト・ボンドを活用するといった2段階に分けた支援となっています。早期の学習支援により高い効果が見込めるほか、投資期間を狭めることによりソーシャル・インパクト・ボンドの投資家にとってもリスクの軽減が図られており、社会全体としてメリットがある点が評価できます。

なお、①小中学校段階での支援対象者の選抜方法、②寄付金の確保方法、③ソーシャル・インパクト・ボンドの規模を拡大するための施策や、④ソーシャル・インパクト・ボンドのリターンを確定するための評価方法等について検討し、多くの子供・学生がこの制度を利用できるようブラッシュアップしていただければ幸いです。

【優秀賞】 一橋大学

マイナス保険料で充実余生！ ～高齢者資産の新たな可能性～

一橋大学チームは、相続先が無い高齢者が保有する土地・家といった資産を社会全体として有効活用していく仕組みを提案されました。

具体的には、相続先が無い高齢者が亡くなった後、土地・家といった資産を銀行や保険会社が受け取ることを前提に、毎月の医療保険料の割引を行う仕組みです。似たような仕組みとして、リバースモーゲージがありますが、リバースモーゲージがあまり普及しない要因を乗り越えるべく当サービスを提案している点が評価できます。

なお、①保険会社・銀行の役割分担、②割引対象としての医療保険の妥当性、③資産価値の利用者への還元割合といった利用者のインセンティブ、④死亡時の資産の譲渡・処分方法について検討を進め、当サービスの実効性を検証することが望まれます。

【敢闘賞】 東京経済大学

プレミアム・インフラ・プロジェクトの推奨 ～多様性が生む経済成長の追い風～

東京経済大学チームは、インフラの「財源の多様化」「財源確保」と「サービスの多様性」を企図した、インフラプロジェクトにおける課金制プレミアムサービス導入を提案されました。

具体的には、高速道路において電気自動車が行進中に充電できる権利をプレミアムサービスとする提案がありました。単なる利便性の向上に止まらず、電気自動車の弱点を補い、電気自動車の普及を促すといった新たな需要・経済成長が見込める点が評価できます。

なお、①既存の資金調達スキームに対するこの仕組みの優位性、②既存の民間サービス対比でみたサービス面での優位性、③このプロジェクト参加者間の適切なリスク配分を考慮の上、採算性・実効性を高めていくことが期待されます。

【敢闘賞】 常磐大学

「労働環境評価融資」で脱・長時間労働！ ～ハイブリッド成果連動型資本性ローンの提案～

常磐大学チームは、労働生産性向上を後押しするための融資制度である「労働環境評価融資」を提案されました。労働生産性を高め、社会全体として長時間労働から脱することを目指しています。最近、ニュース等で取り上げられることの多い長時間労働・過重労働に対して、規制強化とは異なる切り口で処方箋を提示している点に感心いたしました。

提案の中で「所定外労働時間削減と労働生産性向上への取り組み計画表」において、改善に必要な取り組みを詳細に明確化しているほか、「時短表」や「生産性表」を用いて取り組みの効果が可視化されるなど、地に足が着いた方法となっている点が評価できます。

なお、提案の実効性が高まるよう、①このローンが企業の収益向上に結び付く仕組みの検討、②借り手・貸し手双方にとってインセンティブが高まるような資金調達の形態・金利体系の再検討、③制度導入による影響・効果の試算を行い、より良い制度となるようブラッシュアップしていただければ幸いです。

3. おわりに

今回の発表論文に関する講評は以上です。日本銀行では、来年度も日銀グランプリを開催する予定です。本日の決勝進出チームの皆さんのように、多くの学生の方々が、身近な生活や大学での勉学をきっかけに健全な問題意識を養い、自ら主体的に考え、仲間と議論しながら提言を作り上げることを通じて、金融・経済面の課題に挑戦していただきたいと思います。

以 上